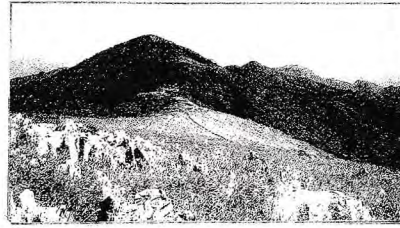


院内だより

327号
岩本内科
30・5



観光列車で遊ぶ

近年は外国人の日本観光が盛んになり大都市や有名な観光地では宿泊施設が不足気味である。一方四国のような地方都市では人口減少が進み、過疎化対策が重要課題となっている。また、公共交通機関として重要視されているJRでも新幹線や大都市周辺は別として、地方では交通機関の体質改善が進められている。近年になりJR四国でも観光列車の企画が始まり、去年は香川で「四国まんなか千年ものがたり」の運行があり私も初体験した。また高知では「志国高知・幕末維新号」を、愛媛では「伊予灘ものがたり・道後編」などが運行されている。

今年の初め観光列車で巡る「四福の物語<四国の伝統文化・維新の章>」が実施されると聞き、申し込みをした。3月に入りスケジュールの全容が分かり、3泊4日の観光旅行を楽しむことにした。旅行に出るには体調とともに先ず天候が気になるが、最近の天気予報は非常に正確であり、1週間前から一喜一憂の日々であった。

初日の4月11日には高松駅に集合し、参加者は四国内や本州からの24名で、中高年男女半々位の団体であった。まず香川県の漆芸研究所で山下義人氏から漆芸体験のお話を聞き、その後お箸作りの実習を受けたあと、高松若竹で日本料理の会食を楽しんだ。それからバスで琴平町の金丸座に行き、第34回四国こびら歌舞伎大芝居を鑑劇(約3時間)の後、琴平グランドホテル(桜の抄)に宿泊した。

2日目は8時から金刀比羅宮を参拝の後、琴平駅から「四国まんなか千年ものがたり」の観光列車に乗り、終点の大歩危駅からは特急「南風」に乗り換えて御免駅で下車した。その後バスで高知県立歴史民俗資料館に立ち寄り坂本竜馬写真の特別公開を観覧し、更に長宗我部元親の国指定史跡である岡豊城跡を見学してから高知市内の城西館に宿泊した。ここでの宴席では鳴子踊りの実地指導を受け、さらに座興用の可杯(べくはい)による飲み会を楽しく興味深く教わった。これは高知市で昭和51年の頃から座興用に始まったという宴席作法であり、初めての体験であった。

3日目にはバスで高知県日高村のトマト選果場を見学し、大量のトマトがベルトコンベヤーに乗って選果され、箱詰めされる現場を見て、試食したトマトの美味しさは見事であった。これらのトマトは近隣の大規模農業ハウスの中で栽培されているのを目の当たりにし、大量生産の実態を垣間見る思いであった。次に歴史のある佐川の街並みを散策のあと、佐川駅から「志国高知幕末維新号(龍馬立志の巻き)」に乗る。1両目はトロッコ車両で天井はあっても側面は無防備のため風圧が体を撫で、長いトンネル

内は気温が数度下がるので毛布を支給されるほどでトロッコ列車は珍しいが反面怖い思いで土佐久礼駅に降りた。

その後はバスに乗り換え急カーブの多い山道を1時間程登ると急に視界が開けて四国カルスト天狗高原に到着した。このカルストは日本3大カルストの1つで、高知県と愛媛県の県境に位置し、標高1355mの場所には「高原ふれあいの家“天狗荘”」があり、宿舎や駐車場には県境を示す白色のラインが引かれている。施設からの視界は東南西方向に大きく開け、両県の山々や谷間が遠望できて素晴らしい景観であるが、気温が下界より5~6度低く防寒が必要であった。当日は運よく雲一つない快晴に恵まれ、夜空には下界では見られない大小様々な満天の星空を仰ぐことができ、その神秘的な美しさに驚いた。主な星の名前、特徴、由来など興味深い説明を聞きながら、寒さも忘れるほどであった。

翌朝起きてみると高原地帯特有の眺望が広がり、弱い曇り空であったが風もなく雲海は見られず、雲の合間から朝日が拝めた。広々とした四国カルストの東に広がる標高1485mの天狗の森は豊かな植生に恵まれた森で平成18年に森林セラピーロードに認定され、森林浴や健康づくり、更に癒しを求めて多くの人々が訪れるという。四季折々に豊かな表情見せる四国の屋根とも言われている。

朝8時にバスで天狗高原を出て雄大なカルスト台地の景観を楽しんだ。ガイドの説明によると5月になると山野草は成長するので牛の放牧が始まり、その牛は一部牛舎もあるが殆どが秋まで自然環境の中で成長し続けるようで、この放牧のお陰で草原は美しく保たれるとの話であって自然界の神秘さを感じた。

再び下界に降りてくると古くは木蠟の生産で栄えた内子の街に入り、曾ては日本一の生産量を誇ったが大正期にパラフィン蠟や電気の普及で終焉を迎えたといわれその名残が観光の主体になっている。八幡浜駅から「伊予灘ものがたり(道後編)」の観光列車で松山駅に到着し、4日間の観光旅行は終わった。慌ただしい旅行であったが、普段には見る機会のない各県の特徴や文化遺産を見聞き、印象に残る出会いも多く和気藹々の中で思い出多い成果が得られたことに満足しJR企画に感謝したい。

今回の旅行で高知県や愛媛県の道路や鉄道を走ってトンネルがとても多いのを感じ、香川県以外の県では山間僻地が如何に多いかを再認識する思いであった。このことから香川県は自然災害の少ない住みやすい地域であることに感謝したい。

